

月刊
MONTHLY

現代

現代6月号第37巻第6号
2003年6月11日発行(毎月11日発行)
昭和42年1月10日第3種郵便物認可

6

2003
JUNE

騒然 亀井静香×民主党若手「共闘宣言」

大討論 立花隆「ロボットの脳は進化する」

石原慎太郎のすべて(最終回) 佐野真一

話題沸騰 野中広務 研究 魚住昭



スクープ

大量破壊兵器はあった!

脱北将軍

最高機密を暴露



小泉政権打倒「秋の陣」は党派を超えて

亀井静香×民主党若手代議士 「共闘宣言」

竹中、川口批判から「カメの餌」発言への反論まで
意気投合の末に、出馬宣言も飛び出した

急接近



中津川博郷
小泉俊明
松原 仁
司会／有馬晴海
(政治評論家)

この不況は「政治の犯罪」

——亀井さんは3月9日、名古屋市の講演で「ポスト小泉は、民主党の一部も含め政治の枠組みを超えた挙国一致内閣を組むべきだ」と発言し、自民、民主両党の幹部を慌てさせました。この発言の背景には、小泉政権への痛烈な批判があると思います。

亀井 私是小泉さんにこれまで3回も直談判をしてるんだけど、もう、あの人に政策転換を求めてもムダだと思っています。党内には「彼が政策転換をすれば支持する」なんて声もあるけど、去年まではそれで通用したかもしれないが、もうダメです。犬が木に登らないうのはわかっているのに木に登ればどうにかしますというようなもので、ハ

ナから期待のしようがない。政府が政策転換をする可能性はゼロですね。

まあ、しかし私はこれまで政権批判は何度も繰り返してきたから、もう陳腐でしょう(笑)。今日は民主党の気鋭の人たちが、日本の今後をどう考えているか、拝聴させてください。

松原 いまの日本は経済だけでなく、文化や伝統の面でも本当に変わらなけ

ら日本を変えろといってきたけれど都知事のままで日本を変えられないことは、彼もよくわかっています。今日も電話で話したんだけど、今後については、いろんなオプションを考えてると思うよ。ただ言えることは、いろんな立場の人がバラバラのままでいたらうまくいかない。そのエネルギーがひとつの政治力学になるような作業をいまからやっていく。それが9月になるか、その前になるかは別だけれどもね。

——統一地方選後、小泉政権の支持率が少し回復したという報道もありますか。

亀井 だからマスコミは常に後追いな

んですよ。自社さ政権にしたって、いってみれば私が最初に仕掛けたようなものだし、また当時の河野洋平総裁をおろして橋本龍太郎にしたのも、私が動き、それにみんなが集まったんです。小沢一郎との自自連立だってそうだよ。だれもそんなこと予想しなかったでしょ。マスコミは連続性で書くけど、政治は常に不連続なんですよ。

——遅くとも9月には政変があると……。

亀井 いや、9月以降は小泉総理はありません。小泉さんが出るか否かは知らないが、もし出馬した場合、だれも対抗馬が出なければ私は必ず出ます

よ。その時点で私が圧倒しますよ。

松原 いまの時代は幕末の動乱期そっくりだと思っくんですね。そして、あの時代、もつとも輝いていたのは自ら脱藩して、大猿の仲だった薩長を結び付けた坂本龍馬ですよ。だから、来るべきときは、われわれみんな坂本龍馬になる。そんな覚悟を持って、ともに闘うべきじゃないでしょうか。

亀井 そのとおり。やりましょう。私はキチッと政策を実行できる人がいれば、その翼籠をかつぐのに、まったくやぶさかではないが、そうでなければ自分で刀を抜く。亀井静香の刀の切れ味は鋭いよ(笑)。

ればいけないときだと思えます。政治の世界でも拉致問題や外国人地方参政権の問題など、超党派でなければ対応できない問題が増えている。もちろん政党政治は続くし、党は重要ですが、その枠を超える必要があるほど危機的状況にあることを、自民党でも民主党でも、あるいは他党でも多くの人が実感していると思います。

小泉 同感です。私はなによりいまの日本経済に強い危機感をもっています。特に地方の経営者の方と話をしているとひしひしと感じます。倒産が年間2万社。自殺者も5年連続3万人を超えましたが、実数は年間10万人以上いると言われています。9・11以上の、まさしく経済テロのような状況なのです。まず党派を超えて交流し、危機感を共有する人が志をひとつにすることが大事だと考えています。

中津川 小泉政権になってから株式の時価総額が170兆円も下がっている。自己破産者は年間22万人ですよ。

イラク戦争や北朝鮮問題の陰で経済有事というべきものが、見えにくくなっている分だけ、さらに深刻だと思う。

亀井先生はこの不況を人災だと批判していますが、私は「政治の犯罪」だと思っています。まず竹中（平蔵金融財政担当）大臣です。あの人は日米を行ったり来たりしている世渡りのうまい商人にすぎません。しよせん、やっていることは机上の理論で、実体経済がまるでわかっていない。こんな大臣を任命した首相の責任は重大です。

そこで亀井先生にお尋ねしたいのですが、小泉首相はこの危機的な状況をどこまでわかっているんですか。

亀井 あの人は全然話にならない。あなた方も、もちろん私も大変な危機だと思っているけれど、彼は違う。弱い木を切り倒して、強い木で元気な森をつくっていくというのが、小泉改革なんです。いま伐つても、景気がいずれよくなれば生き返ると思っている。だから景気対策などやっちゃいかに

いうのが、彼の信念なんです。だから残念だけれど、われわれとは話がかみ合うわけがない。

グローバリズムと闘おう

小泉 小泉内閣のウラの目的は財務省主導による財政均衡至上主義なんです。私も委員会で財務大臣や金融担当大臣とやりあってきたのですが、彼らの話を聞いてみると、景気回復など目的にしているのがよくわかる。財政均衡のことだけを考えて、死んでしまふ人は死んでしまえ、という感じなんです。

亀井 予算単年度主義の弊害ですよ。財務省というのは入るをもつて出るを制すでしょ。とにかくできるだけ借金をしないで予算編成したいというのが、財務省の伝統的な考え方です。なにも長期的な判断でやっているわけじゃない。ところが、経済というのは生きているから、年単位で区切るわけにはいかないんだ。

小泉 そうなんです。予算を使い切らないと次年度の予算がつかない……。

こんな考えでは改革なんてできるわけがありません。ところが、この肝心のところは財務省の聖域なので、小泉改革では手をつけるつもりがない。

松原 竹中さんはイギリスのようなウィンブルドン方式、つまり、場所を提供するので全世界から国際金融資本が日本にきて経済を活性化してほしい、という手法を持ち込もうとしています。

しかし、こういうグローバルイズムは日本になじまないと思う。イギリスと日本では歴史的環境が違いすぎますからね。そのことを竹中大臣に買した

ら「いや、私もウィンブルドン方式は日本ではできないと思う」と言うのです。言っていることとやっていることが違

うと感じましたね。

中津川 彼は日本の大臣じゃない。アメリカの大臣ですよ。

亀井 オレは相手にしないんだよ。彼と話していてもベコベコするだけで、

全然、議論にならない(笑)。

松原 日本企業には一つひとつに歴史があり、地域との関係があります。い

ってみれば牧場の牛にも一頭、一頭の幸せがあるということです。そして大切に育てれば、ミルクも搾れるし、子牛も生む。ところがアメリカのハゲ

タカフアンドは、この牛を殺してステーキにしたら、いくらで売れるかし

か考えていない。

亀井 まさにそのとおり。馬鹿げたグ

ローバリズムと一緒に聞きましょう。

中津川 そのひとつとして私は金融行

政を、ぜひ、亀井先生にやっていただ

きたい。日本の銀行は十数年前までは

世界で一番から10番まで占めていたの

に、いまはどこも入っていない。銀行

の自己資本比率を決めるBIS規制に

しても、国際的にマネーセンターバン

クとしてやっていくなら8%はし

かない。しかし、国内だけを相手にする

信金、信組地方銀行は4%などと決

めずに自由にやればいいんです。グロ

ーバリズムの弊害です。

松原 国民不在のグローバルイズムは許

せません。私は与党の中で、キチッと

国益なきグローバルイズムについて反対

する勉強会を始めていただけるなら、

超党派で入会して一緒に勉強したいで

すよ。

亀井 さっきから話を聞いていたら、

オレがなんで自民党におるのか、わか

らなくなってきたよ(笑)。自民党の

新人類とかいう若い衆たちはこんなこ

とは言わない。あいつら、六本木で外

資の連中とばかりメシ食って、マネ

をしているんだからね。

財務省の言いなりになるな

——それにしても、日経平均が再びバ

ブル後最安値を更新するなど、日本経

済は危機的な状況にあり、緊急の対策

が求められています。しかし、小泉内

閣は相変わらず、腰が重いですね。

亀井 小泉政権はブレーキを踏んでは

いかんときに、ブレーキを踏んでるん

です。ここは思い切ってアクセスを踏みしめない。我が国には1400兆円もの金融資産があるし、外貨準備高だって4800億ドル（日本円に換算して約58兆円）以上もある。これをどう活かすかですよ。金融国家として生きていくには、到底、えげつない外資にはかなわない。かといって、経済産業省が考えているような通商国家にもなれるわけがない。昔のカルタゴじゃあるまいし、米中間の中途貿易などで食っていける道理がないんですよ。日本はいまこそ、日本のためにも世界のためにも、思い切って内需拡大をすべきだし、民が動けないいま、官がそれを主導するしかない。

——以前からの持論ですね。

亀井 2年前、私が総裁選に出馬したときは「亀井に任せておくと、借金ばかりが増えて日本はあと10年で沈没してしまう」という批判が噴出したけど、そんなバカなことはない。積極財政で一時的に借金を増やしたって、国

債も日本国内で消化して、海外から借りるわけじゃないんだから問題ない。財政法を変えて日銀が直接国債を引き受ける手だってある。さらに30年、ま

た30年と、子や孫たちにどんどん借り換えていけばいいんですよ。その間にゆっくり借金を返していけばいい。

小泉 結局は小泉首相が財政均衡至上主義の財務省の言いなりになっていることが問題なんです。日本の国力の源泉はとにかく経済力なんです。食料にしろ、エネルギーにしろ、大部分を輸入に頼っており、経済の力が弱まればこの国は生きていけなくなる。すべての政策目的は国力をいかに高めるか、経済力をどうやって強めるかに集中すべきなんです。その目的意識を持った人が、国のトップにたないといけません。

亀井 最後は政治の決断なんです。宮沢内閣当時、私は政調会長代理として、「新社会資本整備」と名付けて、情報通信、教育などに予算を配分した

んですよ。しかし大蔵官僚たちは猛反対でした。「新社会資本」なんて名前を使うなと言う（笑）。今度は民間の資本もうまく使って、エレクトロニクス、バイオなど先端技術の開発や、ゴミ処理場、介護施設などの分野で50兆円規模の事業を、思い切って実施する。やはり、日本の生きる道は最先端の技術革新しかないし、こういうときこそ、日本が世界経済を引っ張っていくための政策をやるべきなんです。

なぜ米・中・朝で決めるのか

松原 私が強調したいのは、まず地価の下落をなんとかい止めるべきだということですよ。そのためには、かつてのバブルのときより今のデフレのほうがはるかに深刻なのだから、国土法の改正という手がある。バブルのときには地価の上限を決めたのだから、今度は下限を決めればいい。たとえば路線価の8掛け以下で売らなったら、国が買い取るぞと宣言すれば、駆け込みで

1兆円ぐらゐは売られるかもしれないが、それで地価の下落が止まります。

小泉 私は下限を決めろとまでは言いません。しかし株や土地を流動化させる優遇税制など大手術をしないと資産デフレは止まりませんよ。

亀井 やはり税制は変えなくてはいいね。もう流通課税をやめなさいといかん。土地は固定資産税だって払うんだから。株式だって同じですよ。

中津川 地価急騰のときは国土法を持ち出して、土地取引を届け出制にしただけではない。さらに総量規制や地価税まで使って、地価を引き下げた。いまは、その逆にあらゆる手段を使って地価下落をくい止めるべきです。

亀井 本来、そういうことをやるために政府はある。だから、政治家は周囲のしがらみにとらわれないで、日本をいい方向に変えていくという点で、政策面でも協力し合わなくちゃいけない。党のために日本があるわけじゃないんだから。その大きなチャンスにな

るのが次の首班指名ですよ。これは与野党を超えて、新しいポスト小泉政権をつくっていくための歴史的な回転のときになるんじゃないか。

松原 従来のような政局運営ではなく、もつと長期的な戦略を考える政局というものが必要になってきますね。

亀井 外交だってそうです。どうして北朝鮮問題について、日本と韓国を外して、米・中・北朝鮮の3国だけで協議するようなことになってしまふのか。今日も、安倍晋三（官房副長官）と顔を合わせたからこう言った。「お前はバカじゃないか、なんでブッシュに日本を外して3国だけで協議を始めるのはどういう料簡だって、文句を言わないんだ」と。日本には拉致問題もあるし、第一、北朝鮮の脅威はアメリカより、日本のほうがはるかに大きいんだからね。

松原 亀井先生には川口外務大臣もなんとかしてほしいですね（笑）。川口さんは外交の舞台で「拉致の問題を取

り上げるかどうかは、他国の皆さんの出方を見ながらやりたい」と平気でいっている。これじゃ日本は拉致問題についてその程度の熱意しかないのかと他国には思われてしまう。

亀井 小泉さんがアメリカのイラク侵攻を支持するか支持しないかと聞かれて「その場の雰囲気次第で決める」と言ったのと同じだよ（笑）。本当は日本はアメリカと同盟国であるからこそ、日本のため、アメリカのため、そして世界のためにイラク問題について言うべきことを言っておかなきゃいけないかった。それを、ケンカの強いガキ大将についていけば、北朝鮮という不良少年にやられないで済む、といわんばかりの態度だった。そんなことで、アメリカは日本を守ってはいくれませんよ。

——口では国益といいながら、結局、なにも考えていない。

松原 例の厚生労働省の計画などもひどいですね。失業保険などで建設した2000件の施設を民間に払い下げる

計画がある。中には建設費の99・97%引きにもなる超大安売りで、合計すれば4500億円もの赤字になる。以前、どこかの銀行の副支店長が何十億円もの損失金を出し、背任の罪で懲役2年の判決を受けましたが、この計算でいくと厚生労働省の人間は懲役500年の罰則を受けても仕方がないことになる。でも、現実にはみんなのうとうとしているわけです。そんな役人たちが、左うちわでRCC（整理回収機構）などに天下って、税金滞納で金利が払えなくなった人たちをしごいている。盗っ人猛々しい。

亀井 まさに図星だね。

小泉 税金をとっているほうが楽しんで、税金を払うほうが苦しんでいるという、おかしい国の構造自体をどうにかしなくてはいいですね。

「悪い子供はブン殴れ」

——いまの日本の停滞状況を語る上で、教育の問題も指摘されます。これについてはいかがですか。

中津川 教育の力というのは、国の在り方に大きな比重を占めます。ゆとり教育だ、総合学習だと言った結果が、学力の低下と道徳心の後退でしょう。これじゃ日本はよくならない。私たち3人は、日本再生には教育が柱になる

という点で認識は一致しています。

亀井 そのとおりですな。一番、間違っているのは、ダメな親の下にさらにダメな子供がいる（笑）。いまさら出来の悪い大人を再教育するのは無理だから、ダメな親から子供を引き離すようにすべきですね。全寮制にするとか、18歳過ぎた子に親が仕送りしたら重加算税を課すとか（笑）。このくらいダイナミックなことをやらないと。

中津川 ダメな先生も離さないといけませんね。公務員といえども、出来の悪い先生には他の適当な仕事に変わってもらうようなことをしないと。ダメな教師に習うことほど、子供にとって

も、日本にとっても不幸なことはあり
ませんから。

亀井 オレは中曽根弘文が文部大臣や
っているときに「政調会長のオレが責
任を持つから、悪い子供はブン殴って
いい」という大臣告示を出せ」と言っ
たことがあるんだ（全員で拍手）。お前の
初歩的な教育改革なんかどうでもい
い。オレが責任を持つてやる、と言っ
ただけど、アイツはやらなかった。
それくらい思い切ったことをやらない
と、教育改革はぬるま湯的なものにな
っちゃうんだよ。

小泉 そもそも、生徒を先生一人に押
し付けるのに無理がある。教育改革は
国民運動レベルでやっていかないと
けませんね。

亀井 だいたい、親が教育現場がどう
なっているかよくわかっていないんだ
よ。ウチの娘が通っていた中学は偏回
教育で有名な学校なんだ。そこで、先
生と父兄の対話の場を設けようとPT
A会長に進言して実現したんだけど、

出席してみたら、亀井静香がくるとい
うんで、いろいろ父兄が押しかけて、
オレが先生と話していると猛烈に政治
的な野次をとばす。こっちはケンカす
る気はないから、しょうがねえやと帰
ることにしたんだけど、ついでに校舎
の中を見て回ったんだ。娘が「ババ、
ウチの学校はハトの巣よ」と言っ
ていたのが引つ掛かってたんだね。そし
たら、理由がわかった。壁に貼ってあ
る子供たちの図画がハトの絵ばっか
し。鳩を描かせるのが平和教育だと思
っている（笑）。

新政権は中選挙区に戻す

松原 大きな時代の曲がり角に差しか
かっていることは確かです。自民党の
中にもそう考えている人は多いでしょ
う。ただ、問題は自民党がどこまで旧
来の姿から変わるかで、なかなか難し
いのではないかな。果たして、自民党が
自分で変化への引き金を引くかどうか
を、国民はじつと見ていると思います。

亀井 党内でいろんな人間と会って、
いろいろ話をしているんだけど、やは
り小泉政治のあとには、ただ単に自民党
の新しい総裁が総理になるというので
はダメだという人は多い。だから次の
政権ができるときは、そうしたエネル
ギーをどういう形で結果するか、石原
新党ができるかどうかも含めて、さま
ざまな状況の中でガラガラボンという
決断をせにやならんでしょう。

小泉 危機意識を共有した人たちがひ
とつにまとまるというのが、一番いい
んですよ。その意味では自民党にも亀
井先生のような方もいるし、まったく
ずれている方もいる。民主党も同様で
す。いまは基本的な認識を同じにする
人たちが、党が同じかどうかは別にし
て、心をひとつにして共に闘わなくて
はいけない時代が来ていると思います
ね。

——ただ、いまの小選挙区制度では、
団結しよう、まとまろうとしてもで
きないような仕組みになっているのも事

突ではありませんか。

亀井 党公認をとれないと、なかなか出てこれない。だから、地方まで全部、中選挙区制にしろとはいわないが、とりあえず都市部を中心に3名区とか5名区に戻したらいい。そうしないと、自民党候補者でいっぱいのところは、考え方が自民党的な人でも党からは出られない。民主党が独占している選挙区でも同じことが起きる。

これが中選挙区になってくると、同質の中から、より良き者が選ばれていくという切磋琢磨が生まれるんだね。そういう政治家を生み出していく仕組みを本気になって考えないと、永田町

はこれまで以上に世間から遊離した政治家集団になってしまいかねない。

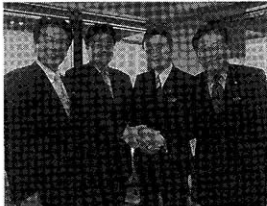
小泉 候補者の世襲も大きな問題ですね。いまの選挙システムでは、世襲以外はどんなに優秀な人材でも、まず公認はとれない。これをなんとかしなくちゃいけない。もちろん、先生のおっしゃったような小選挙区制の部分的な変更をやっていかないと、本当の政治勢力の結集は難しいと思います。

松原 世襲問題についていえば、自民党は二世、三世議員と官僚出身者が非常に多いんですね。私は政策の一貫性や安定感という点で、二世議員も官僚出身もかまわないというのが持論なん

です。ただし、その数が過半数を超えてはいけません。そうであってこそ、政党はダイナミズムを持つし、民意を反映できると思う。ところが、現実の自民党の二世議員や官僚出身議員の数は全体の60%、70%でしょう。これでは、彼らは既得権益をさらざるをえず、結果的にダイナミズムも生まれません。

亀井 おっしゃるとおり、そういう点をキチッと変えていくことが大切になっている。私が新政権をつくれれば、秋の臨時国会でも、通常国会でもいいから、中選挙区に戻します。そのくらいのことをしてなきゃダメなんだよ。

——ところで亀井さんの名古屋屋での挙



中津川 「大臣を断る」。一度でいいからいってみたい(笑)。

亀井 ポストのために生きてるつもりはないんです。この時代は個人の政治的野望や権勢欲で政治がやれる時代ではないんです。岡田さんがそういったのは、ご本人がそうだから、他人もそう見えるだけの話でしょう(笑)。

小泉 ただ、ぼくの感じでは若い人たちのほうに危機感強い。その点、政治キャリアを持った年配の方たちには、亀井先生のような覚悟があまり見られないような気がするんです。

亀井 いや、そうでもないでしょう。

みんな相対に危機意識を共有しはじめていると思うよ。先の農水大臣の後釜選びにしたって、4人も断ってるでしょう。昔の自民党だったら、たとえ1日でも大臣をやりたいという奴ばかりだったんだから(笑)。党の中にも変化する兆しは出てきてますよ。

小泉 そこがまだ、ぼくにはちょっと見えないうですけれどね。

中津川 いまもつとも苦しんでいるのは中小企業の経営者や、バブルのときに銀行から相対策と称して借金をさせられた人たち、この人たちはこれまで日本を支えてきた人であり、多くは自民党の支持者です。ところがその人たちがいま小泉失政の下で苦しみをあえている。彼らにこそ、政治の知恵と力が必要なんです。その危機感を共有できるのであれば、本当に……。

亀井 結局、政治家のやる気というのは自分の背中で見せていくしかない。いっしょにやろうよ。

「私が圧勝します」

——これまでの話をうかがっている
と、9月の総裁選前に打倒小泉に動くことは決まっているようですね。ではその戦略をどうするのか。たとえば石原新党について、亀井さんはその協力者でもあるといわれていますが。

亀井 わたしも彼の腹の中を全部わかつてるわけじゃありませんが、東京か

国一致内閣発言について、翌日、民主党の岡田克也幹事長は「(党からこぼれて)カメの餌になるような人はいない」と批判しています。

亀井 岡田さんがどういおうが、別にオレは私利私欲を求めて政治をやってるわけじゃないからね。これまでだって、二度も大臣を断ってるしね。